

<活動の記録>測量士への道

小泉, 晋

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

7

(開始ページ / Start Page)

64

(終了ページ / End Page)

66

(発行年 / Year)

1966-03-21

測量士への道

小 泉 晉

十年一日の如く、年月の流れるのは、早いものです。地理学科を卒業して、各自の熱望した会社、官庁に就職出来た人ほど幸福な人はないと思います。御存じの通り世界の文化、産業、科学、技術の急速な進歩発展は、めまぐるしく限りがありません。この中で先輩諸兄が各方面に重要な責任を持つて人類の生活文化に貢献されている事と存じます。このたび「法政地理7号」発行につき編集部より、私の体験記を出筆して載きたいとのことでありますが、私のような弱輩が先輩諸兄をさしおいて執筆するのは僭越ですが、後輩のため私の様な職業にも生活の活路を見出し社会のために貢献が出来る道しるべともなれば幸いと思い執筆した次第であります。

私は、現在小さな測量設計事務所を開業しております。どちらかと云えば技術屋でありじみな仕事であります。その仕事の相手は、自然の土地、数字、一定規格に支配された図面、それらは言葉を発しない沈黙の世界であり、目の前に置れた1枚の純白の紙であるかも知れませんが、私はその世界に思う存分自分の感情を表現し、その中から恋人の如く真実の愛情を受取ることが出来るのであります。完成された設計図を見る時、すべての苦勞を忘れさせ我が血液が力強くかよっている喜びを感じております。

さて私の卒業時にはやはり就職難でありました。私は高校の教師になりたいと思い各方面に就職の依頼を致しましたが、その希望はかなえられませんでした。幸い地理学科を卒業致しますと測量士補の資格が得られることを思い立ち、測量士として身を立てる決心を致しました。私共卒業生の中では、私のような道に進まれた方は少くなく、ほとんど会社、官庁、学校に勤務された方が多いと記憶しております。

私が測量会社に入社して得た体験は、筆舌に尽くせぬ苦難の道でありました。先づ仕事の内容を見ると、学校で修得した知識で完成できる仕事は、絶無と云つても過言ではありません。トラバ一測量は、相連続せる折点の距離及方向を順次測定する方法であり、その用途は、鉄道、道路、水路測量などのように、小さな住宅の如く小面積の測量より大区域の平面測量、更に河川、地形及地籍測量等に用いられます。そして測量士は単に仕事の内容に従つて測量をするのみではなく、工事設計、土地の移動による不動産登記の問題、農地法に関する問題等を、会得していなければ1人前として仕事を行なつて行くことはできないのです。ですから法律的、技術的にも何1つ知らない私にとっては、恥も外聞も捨てて、唯々一生懸命に技術の修得に専念するよりしかたがありませんでした。

この様な思出もあります。入社してまもなくのことでした。測量主任が君は2年も勤務すれば測量士になる資格があり、大学では十分測量技術について学んで来たはずであるから、この器機（トランシット）を持つて地形測量をし、その成果表を提出してくれないか、と云われた時は目の前が真暗になりました。しかたがなくトランシットを持つて現場に行きましたがトランシットのバーニアの読み方も知らず、トランシットの据付方も知らない私に、どうして測量が出来るでしょう、か、何一つ仕事も出来ず頭をうなだれて帰り、ひどく叱られた時ほど赤面した事はありませんでした。こんな測量士の卵がいるであろうかと自分ながらみじめでなりません。何度か悔しくて布団の中で泣いた思い出もあります。

それからと云うものは、恥じをしのでこの道のベテラン先輩達に休日と云わず、夜おそくまで、バーニアの読み方、野帳の記入の方法、野帳にもとづく計算の方法、各種測量の方法、製図法、工事設計法、不動産登記法、農地法、建築基準法につき技術の修得に専念いたしました。その甲斐がありまして2年半くらいで一通り自分で出来る様になり、後から入社してくる人達にも恥ずかしくないようになり、後輩達は、ほとんど大学の土木科、建築科出身者であり、測量設計の技術面に於ては、私共地理学科出身者とは格段の差があります。しかし彼等とても測量会社に入社してすぐに仕事が出来ず、私と同じように苦勞を致してゐるようです。したがつて土木科、建築科出身者と背を並べて行くためには地理学科出身者は、彼等の何十倍の勉強もし、苦勞もしなければならぬ事は、云うまでもありません。しかしひと通り仕事が出来るとなつても、なんの仕事でも同じと思いますが奥行は深く、これで良いと云う事はありません。日々が勉強の連続であります。3年目だと思いますが、建設省国土地理院へ測量士の登録が出来ました。

測量士になれば会社に永久に勤務する場合は、測量技術で優遇されますが、小さいながらも測量事務所を開業するためには、毎年8月に法務省が施す土地家屋調査士の試験

1. 土地家屋調査士に関する事項
1. 不動産の表示に関する事項
1. 平面測量（コンパス及平枚を用いる図根測量）
1. トランシットによる計算
1. 作図縮尺及伸図並にこれに伴う地図の表現

を受けねばなりません。この試験を受けるために、不動産登記法の勉強で一方ならぬ苦勞を致しました。そして昭和35年に資格を得て昭和36年に測量事務所を開業するに至りました。開業致したと申しましても、すぐに仕事があるわけではなく、外交に飛ぶるかねばなりません。1年間ぐらいは収入がなく、これで生活が出来るであろうかと心配致しましたが、幸い日本経済

の成長期でもあり、道路・建設・宅造ブームでもありましたので、苦しい体験もありましたが、まがりなりにも現在営業を行なつて行ける様になりました。また測量業者登録を致し官公庁の指定業者となり測量工事も出来るようになりました。

今私の歩んで来た道を思う時、後輩の方々が、測量事務所を開業するためには、大学で測量学を十分修得し、大学では学ばない工事設計の技術と不動産登記法等関係法律の学問を、何等かの型で修得すべきであると思います。そして1人でも多く我が法政地理学科から立派な測量士が、社会にでて活躍される事を祈ります。

おわりにのぞみ、私共が行なっている仕事の重要さを少し述べて載せます。昭和24年測量法、昭和26年には国土調査法が制定され、測量に対する考え方が国家的となり、国家として測量に従事する技術者を育成し、社会に送りださねばならない時代になった様です。皆様も御存じの通り大都市及其周辺の地域や、地方の開発拠点となる地域においては、宅地需要に対応する宅地供給の不足から大規模な宅地造成がなされております、それがあまりにも無秩序な散落状の市街地現象を引おこし、通行の安全、避難の上でも支障を引おこし、排水施設の不備によつて溢水、がけくづれ等の被害が続発するなど、住宅地の造成によつて公害を発生される結果が生じている事は、新聞紙上で御存じの事と思います。

この公害を防止して居住環境の整備を図るため、民間で行う宅地開発事業について不良のものについては、一定の規制がなされることになり昭和39年7月に「住宅地造成事業に関する法律」が公布され、したがつて宅地造成による測量工事設計は、これ等の法律、宅地造成等規制法、建築基準法、下水法、農地法、地すべり等防止法、都道府県の宅地造成工事細則等にもとずいて行なわねばならなくなり、非常に広範囲の法律に規制される事となります。

そこで測量工事設計技術は、重要な事は申す迄ありませんが、これ等技術と平行して関連法律の知識の修得も重要になりました。また土地の所有権の移動が甚だしく、それに対応して測量関係の仕事も多いのですが、市街地に於ては、3・3平方メートルにつき何万円、何十万、何百万円と云う土地の測量登記を致します故、私共の測量技術が如何に重要であるか、また責任の重い仕事であるかおわかりの事と存じます。本当に日々神経がすり切れる思いですが。それだけに誇り得る仕事であると確信致しております。

(33年度学部卒)